

特定非営利活動法人
福山市身体障害者団体連合会

第41号

福山市身連通信

2021 (R. 3) 年1月

発行者 NPO法人 福山市身体障害者団体連合会
編集者 福山市身連 広報部市身連通信編集委員会
連絡先 電話 (転送) 084-961-4733

目 次

ボウリング大会開催

社会見学ツアー
二

社会見学ツアー
一

歌声サロン開催

新年ご挨拶

5

4

3

2

1

新年のご挨拶を申し上げます

特定非営利活動法人

福山市身体障害者団体連合会

理事長

菅原 晃

事務局長

根本 敏太郎

我々の経験したことのない暮ら
しを強いられた一年がおわり新し
い年を迎えました。

あけましておめでとうございます。
しかし年が変わっても安心できる
生活になるには本当に有効なワク
チンが出来てそれでコロナウイル
スの蔓延が収まり以前の生活に近
い状態になることが最大の願いで
す。

会報編集時幸いなことに我々の
仲間にコロナの感染も犠牲者も出
ていませんが、東京などでは毎日
三桁の感染者が出続き秋に入って

欧米ではいったん収まるかと思わ
れた流行が第一次を何倍も上回る
勢いで起きており、今年に延期さ
れたオリンピック・パラリンピッ
クも本当にできるのだろうかと言
う現状です。

今年もコロナとの戦いの一年と
なるかと思えますが対策が功を奏
して、会員の皆様は極力予防に気
をつけて生活され、我々の活動が
復活の年になることを願っており
ますと同時に会員の皆様が元気で
団体活動にご協力いただけること
を願っております。

参加団体

福山市身体障害者福祉協会

会長 種本 益明

福山市視覚障害者福祉協会

会長 大成 敏正

NPO法人福山ろうあ協会

理事長 杉原 瑞枝

福山車いす福祉協会

会長 坪山 明生

福山市難聴者中途失聴者協会

会長 井上 佐智子

新市町身体障害者福祉協会

会長 三島 茂

神辺町身体障害者福祉協会

会長 園生 浩治

個人参加の会員

福山市身体障害者団体連合会

歌声Salon 開催

時 令和2年10月18日(日) 13時
所 福山市人権交流センターホール

今年度はコロナウイルスの影響で団体活動ができなく、例年年度前半にある大会等がほぼ中止になり会員同士の集まりも他団体との連携活動も出来ず継がりの薄れることが心配されていきました。

国が経済を回すことに重点を置き出して、コロナを気にしながらも行事が出来るようになって、我々連合会も何か団体活動をしようと思案し 歌声サロン を開催する

連合会は十月の連絡会が三日の予定でしたが、直前事務局長が体調不良で連絡会を一週間先送りし、行事も先送りしようと思案しましたが、ホールは予約があつて十八日以外はなく変更できませんでした。そこで一週間だけの募集となりました。しかし二十七名程の参加者があり、幸い事務局長が回復して当日の歌詞カードや茶菓も

ことになりました。

この行事は以前事務局長が視覚協会関係で開催経験のあることだったので、それを活かして段取りはほぼ事務局長がつけてくれました。

しかし年度初めから予定の活動ではなく、会員への案内など急な告知になるので参加者の数が読めず気になりますので、町サポにも広報し十月十八日人権センターのホールを予約して準備しました。

先ずセンターの使つていいですよと言われたピアノを点検すると長いあいだ使つてなく調律しないと使えない状態だったのでそれを連合会が負担してやつてもらつたことになりました。



用意してくれ、ボランティアもお願い出来ましたので、無事開催できることになりました。

ピアノ演奏をお願いした安藤美和子さんは視覚障害者ですが、専門家を目指しておられたようですが、それで生きていくには厳しかったと紹介がありました。

会場は休憩時間に用意したケーキを食べるように机も出しましたが三蜜を避けるため離して並べ場所を十分に使つて、理事長が挨拶をし、演奏者の紹介があつて始まり、最初にショパンの曲など二曲演奏を聞いて、それからみんなよく知っている童謡などを次々に演奏してもらいました。曲を聴いていけば誰もが自然に歌が頭に浮かび口ずさむようになりました。

受付で歌詞カードやケーキ、飲物、フェイスシールド、手拭き等を袋に入れて配つていて、歌詞カードには二五曲あつてその半分ほどの頃いったん休憩にして、その日わざわざ取り寄せてもらったシフォンケーキを食べてもらいました。

このところの行事は三蜜を避けることが大前提なのでボランティアを含めて三〇数名ですがホール全体を使つての行事になりましたがピアノの音は全体に響きよく聞こえ心配はいりませんでした。

最後は蛍の光で終了でしたが、少し時間があり、二曲リクエストの演奏でお開きとなりました。

急ごしらえの事業でしたが、天候もよく、参加者・協力者があつてそれらしき活動の一つになりました。

広島県身連組織強化事業

社会見学ツアー参加

時 令和二年十一月二十五日
所 ホロコースト記念館 等

今年度の連合会活動は一般社会の生活と同じくコロナによる自粛や制限によってほとんど出来ておらず、会員同士の顔合わせも大変少なくなっていますので、県身連でもこのことに心を痛めコロナを気にしつつも国が経済活動を動かすために始めた制度に協力する形で行事を企画しました。

福山市身連が県身連からこの話を聞いたとき行き先が福山市と聞いて何のことかと思いましたが、広島方面の参加者で即満席になったよう、福山も活動を模索して参加について話しているうちに満員ですと言われ、第二次を計画してもらい参加することにして希望者を募りました。

第一次は主に県西部の参加者で十一月十日に行われ、我々が参加

する第二次は十一月二十五日となりました。この回には県東部の尾道や福山の会員対象で募集し、福山は二十五名ほどの参加を予定して募集しました。

この企画はGOTOなどの制度を利用しての旅行なので一日リフト付きバスを利用しての行程でも地元なのであまり実感が薄かったです。参加費はバス代、食事代半額、お土産付きと言う大変お得な旅になりました。

当日曇天でしたが雨にはならずバスは三原の方から先ず尾道の参加者を2ヶ所ですべて、県身連の黒飛氏と山中さんが二度目の参加で福山に来て最初に人権センターで福山の参加者の半数以上が乗車、時間通りに駅裏に向かい、そこから広尾、王子で全員が揃い最初の

目的地ホロコースト記念館に向かいました。

市内にある施設ですが参加者のほぼ全員が来たことがなく始めての見学でした。車いす、視覚等バスの案内されてホールに揃うのを待って館長の話を聞くことで手話のボランティアにも来てもらいこの記念館の出来た由来を聞きました。

それから参加者は二手に分かれてそれぞれ館員の説明を聞きながら

館内を見学しました。

ここは館長が若い頃「アンネの日記」でよく知られるアンネ・フランクの父親に巡りあったことからナチス・ドイツのユダヤ人迫害の歴史的悲劇を出来るだけ多くの人に知ってもらい、このようなことがなくなることを祈って作られたものでした。アウスビッツ収容所の存在やガス室のことはよく聞いていましたがホロコーストの意味はよく知りませんでしたので、この考え方があれだけ多くのユダヤ人を死に至らしめたことになりナチス・ドイツがなぜそこまでやることになったか改めて調べる気になりました。



ホロコースト

元はギリシャ語で「全てを焼きつくす」の意味。今はナチス・ドイツによる600万人のユダヤ人大虐殺のことを指しています。

我々が若かった頃は多くの戦争映画が作られ、よく見ていましたが最近では少なく忘れかけていた記憶がよみがえってきました。(次頁へ)

研修ツアー 続き

お昼近くになってホロコースト記念館に別れを告げた我々は今回の参加者の楽しみでもある春日町の「ステーキハウス」都” に向かいま

した。
ここの店内には大きな円形のテーブルやストリートな席に鉄板が併設されていて、その前で四・五人のシェフが対面で鉄板での調理をして出来立てを各お客に配って食べさせる様式で、我々が席について最初は活きあわびの料理から始まりました。その食事の始まる前

ホロコースト記念館

場所 福山市御幸町中津原815
TEL 084-955-8001
館長 大塚 信(まこと 聖イエス会牧師)
(1971年オットーフランクに会う)
創設 1995年
開館 日・月・祝日以外10:30~16:30
料金 入場無料
団体 予約必要



に今回県身連行事なので、参加している前川副会長が挨拶をして、続いて菅原福山市身連理事長が乾杯の音頭を取って会食となりました。料理のできるのを見て待ちながらここではさすがにみんなマスクをつけたり外したりでは料理を味わった気がしないので、外してテーブルにおいてせっかくのご馳走をしっかり味わうことにしてメインのステーキまでゆっくりとコースを楽

しました。

ごちそうと好みの飲み物で満腹になった参加者たちは今回のもう一つの目的地である駅裏方面に向かいました。

福山のシンボルとも言える福山城はそれ自体博物館となっていますがその西側の地帯は文化ゾーンとしての施設が集合していて、県立歴史博物館やふくやま美術館、人權平和資料館等があつて、今回の



行事は福山での研修なので「ふくやま美術館」を見学することになっています。

お城の西側にバスを停めて、朝駅から参加した人たちはこのあと解散になりますので根本事務局長が最後の挨拶をして美術館に向かいました。

ここでも記念館のように手話ボランティアの方に待機してもらっていて見学のお手伝いをしてもらいました。

約一時間アートの接した参加者たちは駅に向かう人たちとここで別れてバスに乗り人權センターに着き福山の参加者たちは全員解散となりました。

福山の会員は珍しく無い地元での行事でしたが、今年久しぶりの行事で会員同士でゆっくり顔を合わせて話し合えたことが意味のあることになったと思います。

夢・・・

朝起きてみたらコロナウイルスが無害になっていてみんな何の症状も無くなった・・・

てここにないかな???

福山市身連スポーツ事業

ボウリング大会開催

令和二年十二月五日 午後
所 キヤットボウルボウリング場

なりました。
会場は今名前が好まないコロナワールドのボウリング場で六日の午後から開催し参加者はそれぞれ昼食を

福山市身連としては令和二年最後の行事となるボウリング大会を昨年と同じく十二月の第一日曜日に開催しました。

募集を始めた頃、コロナはやや収まっていて自粛を強いられている会員たちから昨年を上回る応募がありました。やはり今年もろうあ協会からの参加者が最も多く十五名ほどの応募がありました。

ただ十一月半ばから東京や北海道に負けず連日コロナの感染者が出だし、ここそこでクラスターと言われる集団感染の報道が聞かれるようになって応募者からも本当にできるのかと電話があるようになりました。

そのため市身連でも極力その心配を防ぐため改めて不織布のマスクを配るなど心配りや対策が必要に



済ませでの参加となり、当日やはり欠席の通知が二名程ありましたが開会直前までに参加者が揃い、

事務局長が点呼して理事長の挨拶で開始になりました。

今回は十三レーン程を予約する大会になり、お互いに障がい者同士の競技なので、ボランティアの支援を受けながらマイペースでボウルを投げてみんな気兼ねすることもなく楽しめたと思います。

二ゲームを終えての成績発表では例年使っているミーティング室が全員入ると「蜜」になるため使えず会場の隅ですることになりましたが、ゲーム中程やかましくなく表彰が出来ました。今年もベスト三にはみかん一箱の賞品に提供のあった人形が副賞につき、ブービーもみかん箱、中間の五位ごとに四〇位まで飛び賞を受け他は参加賞をもらって終了しました。

今年我々の活動はコロナウイルスのため大きく左右されましたがその中でも手話通訳、要約筆記のボランティアの方々が大変お世話になりました。我々がお互い通じ合っただけの活動には欠かせない存在で大変感謝しております。本当にありがとうございました。

NPO法人 福山市身体障害者団体連合会

<http://fukuyamasisinren.sub.jp/>

インターネットの検索欄で、上記のアドレスをいれて検索するか、福山市身連の文字を入力して検索して見て下さい。ホームページをご覧ください。